

本紙は学内利用限定です。無断転載はご遠慮ください。

2023.9.4.

就職活動を行う後輩へのアドバイス



本紙は、毎年、卒業・修了予定者を対象に実施している進路調査の付属アンケートにおいて、学生から寄せられたこれから就職活動を行う後輩へのアドバイスをまとめたものです。

2019年度～2022年度卒業・修了生からのアドバイスを、個人が特定されることのないよう配慮しつつ、できる限り生のコメントを活かす形で掲載しています。皆さんの学生生活や就職活動の参考になれば幸いです。

* 卒業・修了後の進路は皆それぞれ異なります。就職活動の活動時期や内容・考え方等にも個人差があり、正解はありません。記載内容は先輩学生個人の意見ですので、あくまで参考情報にとどめ、主体的に自分にあった活動をしていきましょう。迷いや不安がある時は、早目にキャリア相談や大学の支援窓口等をご活用ください。

https://www.kit.ac.jp/career_index/



京都工芸繊維大学学生支援センターキャリア支援室

自己分析・研究・大学生活について

就職先の求める人物像を見極め、自分のセールスポイントとマッチさせることが大事だと思います。頑張ってください。(学部)

自己分析よりも今後自分がどうありたいかを考える方が大事だと思います。(学部)

自分といかに向き合うかが大切なので、家族や友達からも意見を聞くと良いと思います。先輩や同期など頼れるものは全て頼りましょう。(学部)

好きなこと、やりたいことを見つけてください！簡単じゃないです。頑張ってください！(学部)

就活は自己研究でもあります。あらゆることを考え抜いてください。そして、新たな出会いを楽しんでください。(修士)

何か自信を持てる要素を作ることが大事だと思います。(修士)

低年次から自分自身のことを深く知り、行動を起こしてください。周りの意見に流されず、行動に自らの意思を持つことが自信につながり、良い結果を導きます。頑張ってください。(修士)

自己分析をしっかりすること。何がしたいのか、自分がどういう人物なのかをはっきりと理解しておくこと。(修士)

日々の研究、過去の大学生活を前向きに見つめなおすと良い結果につながると思います。(修士)

就職活動は自分を見つめ直す時期だと思うのでしっかりと自己分析を重ね、本当にやりたい仕事を探し、自分はどのように働きたいのかをしっかりと考えてください。コロナ禍で大変な時期ですが自分の将来のために悔いのないように全力で取り組んでください。応援しています。(修士)

自己分析が難しいと言う方は、自分がなぜそのような行動をとったのか？Why？に対する問いに答える形で、常日頃から、自身の行動に根拠や理由を持つことで自己分析が容易になると考えています。(修士)

自分の研究テーマを説明できることは勿論ですが、この研究テーマがどのような分野で生かされるかを意識して研究に取り組み、就職先を検討してみてください。(修士)

自己分析・研究・大学生活について（前頁からの続き）

勉強・研究を頑張る。（修士）

会社を決めるにあたって自分の中で譲れない条件は早く明確にしておいた方が、無駄に迷うこともないし志望度が明確になってモチベーションも上がる。（修士）

会社を決める前に、自分のやりたいことや、将来像を明確に決めておくことが大事だと思います。

会社の大きさや、安定性も重要ですが、一番は自分のしたいことができ、努力できる環境がある会社かどうかと思います。

より不安定で先が見えなくなりつつある時代なので、大企業でも安心できないと思って、自分が一番成長できるだろう企業を志望しました。（修士）

修士以上の学生にとっては、研究活動が最大の就職活動です。研究に真摯に取り組んで積極的に学会発表した人ほど、採用面接時に研究について話せます。周りの修士の学生を見ててもこれは思います。

早い段階から準備を進めるに越したことはないですが、うまく研究と両立することをお勧めします。（博士）



情報収集全般・OB/OGについて

就職活動は自分で行動しないと始まらない。誰も教えてくれない。周りが当然のように院進するからといって、将来のことを深く考えずに4回生になると後で痛い目を見る。院に行くならなぜ行きたいのか、将来のなりたい姿をしっかりと思い浮かべる必要がある。就活はある意味運みたいなおもろもあり、企業に落とされても自分を否定されたと思わないでほしい。(学部)

私のように自由応募を考えている学生は、余裕をもって行動するほうが良いと思います。例えば、推薦を考えている学生とはスケジュールが異なるといった部分を考慮することは大切だと思います。もし競争の熾烈な企業や業界、卒業生のいない業界を自由応募などで考えているならば、余裕をもって、情報収集・準備したり、有名な私立の大学の人と情報交換するのも有効だと思います。(学部)

独りよがりの考えで就活をせず、先輩や教授、社会人の話をたくさん聞いて広い視野を持つことが大切だと思います。また機会を逃さないように、就活生同士でも情報をたくさん共有することも大切です。(学部)

OfferBox(逆指名型サイト)を利用しました。大変使いやすく、便利でした。(学部)

研究活動との両立は正直とても大変とは思いますが、自身の就職活動を通じて、余裕をもって行動・対策をすることが何より肝心だと感じました。周囲の友人との情報共有や先輩のアドバイスを積極的に利用し、一人で悩みすぎず進めていくと良いと思います。(修士)

どんな風に働きたいかを知るのも就活なので、やりたいことが分からなくても就活のイベントには行って良い。むしろ分からない人こそ行くべき。なんとなく思っていた自分の働く姿が、いろんな話を聞く中で具体的になっていくのは楽しいよ。(修士)

結局は、余裕をもって自分から動けるかで全てが決まる(修士)

研究の妨げにならない程度に余裕のある時期に情報を集めることをお勧めします。直前になって取れる選択肢が少ないことに気づいては希望する職種に就けない可能性があります。(修士)

情報収集全般・OB/OG について（前頁からの続き）

友人と交流するなどの中で、情報は早めに集めることが大切です。
（修士）

いろいろな先輩の話を聞いて判断して欲しい。（修士）

研究室の OG/OB 訪問を積極的に行ったことが何よりよかったです。自分のやりたいことは決まっていたので、専門的な話をした上でやりたいことが実現できるか、その可能性を見極めるには、全体への説明会ではわからないことが多く、専門職の方と会ってリアルな話をする方が得るものが大きかったです。（修士）

サークルで知り合った先輩が働いておられる会社だったので、企業の情報や面接のコツを聞きました。（修士）

就職活動に専念するか、研究活動と並行するかは、個人によって合う合わないがあるので、その人にあったやり方で就職活動をするのが良いと思う。また、業界や業種を絞って就職活動をするのも良いが、その業界・業種が良いという理由を深めるためにも、関係のない企業のことを調査するのが重要だと思う。（博士）

学生の持っている知見は非常に狭い。まずは先輩、同期などの情報をあてにせず、自分で徹底的に企業研究すること。（博士）



業界・職種研究について

初めは大手企業の説明会に参加して、就業内容等のイメージをつかんでから中小企業の説明会に参加するのもよい。(学部)

理系大学生だから技術職という固定観念を持たずに幅広い業種・職種を検討することをお勧めします。(学部)

工学部卒だからメーカーの技術職という前提は必要ないと思います。もっと色々な業界を知ったほうが就活も楽しいし、結果技術職につくにしても、より意志が強くなると思うので、色々見てみてください。(学部)

自分のしたいこと、したいことをできる場所を探すのが就活です。企業側の一方的な採用活動ではないということを忘れずに、恋人探しのような感覚で活動できれば視野が広がり、楽しんで就活できると思います。頑張ってください！(修士)

自分の専攻にとらわれず広い分野の業種をみてください。(修士)

将来やりたいことは絞っていくけれど、企業は絞るより広げていった方がよいと感じました。(修士)

就職活動初期において自分が絶対に行きたいと思った企業であっても、活動を進めるうちに考え方が変わることもあるので、視野を狭めて選択肢を少なくしないようにしてほしいと思う。(修士)

何事も余裕をもって行うこと。そして、自分の可能性を最初から狭めることなく色々な企業を受けること。楽しくありのままの素で面接に臨むこと。研究との両立で大変だと思いますが悔いのないように頑張ってください。(修士)

企業に対して、消費者として良いと思う点と被雇用者として良いと思うことを混同しないことが大切だと思いました。就職活動をしている中で、消費者目線で良いと思った気持ちのみで就職活動を押し切っている人がいたように感じたので、両方の面から良いと思える企業に出会うことが大切だと思いました。(修士)

早く内定をもらうことがすごいことでも、正しいことでもないです。できるだけたくさんの社会人と出会い、お話ししてください。自分の知らない世界を知ると将来の可能性が広がります。(修士)

業界・職種研究について（前頁からの続き）

公務員志望の場合も民間企業を併願しておいたほうが良いと思います。（修士）

就職活動では色々な企業を見て回ることをお勧めします。その中でやっぱりここが良い、や、ここは合わない…などなど出てくると思います。（修士）

世の中の企業は思ったより多いので気をつけましょう。（修士）

自分が専門で勉強してきた業界に行く人は多いと思うが、このまま働くのは違うかもしれないと自分が思ったら進路を全く変えてもいいと思います。また、ネームバリューで決めるのではなく自分が精力的に働けそうな相性のいい会社を探すといい。（修士）

志望業界を絞りすぎないこと！！（修士）

業種は広げすぎると負担が大きくなる。（修士）

就活の軸を早期に固めておく。そのためには様々な業種の会社説明会に参加しておくといい。（修士）

インターンシップについて

インターン選考は選考のステップが少ない企業も多く、夏～冬のインターンには参加した方がよい。また、希望の業界や職種がある場合でも、それに拘り過ぎず広い視野で企業を見ていくことが、焦らず就職活動を進める上で大切。（修士）

大企業からベンチャーまでいろいろインターンに行くべき。自分の自己分析や選考の練習にもなる。（修士）

早々に職種を決めて就活を始めるのではなく、まずは合同インターンシップイベント等で様々な企業のブースに参加してみると思わぬ発見があるかもしれません。（修士）

絶対行ってください。私は行かずに後悔しました。（修士）

長期インターンは積極的に参加するべき。（修士）

インターンに行くことは大事ですが、行かなかったからといって就職できないことはないので頑張ってください。（修士）

インターンシップにおいて、対等な対応をしてくれる会社に行くことが望ましい。（修士）

エントリーシート・面接対策について

ポートフォリオ作成、既存作品のブラッシュアップは早めにしましょう。(学部)

面接練習はしっかりした方がいいです。頑張ってください。(学部)

物事を伝えるときは、対象に合わせて伝え方や内容を考える必要がある。これは面接でもエントリーシートでも同じ。(学部)

男性が多い業界のため、就活中に性差に関する質問があった(男性の中でやって行けるか、体力は追いつくか、女性の一人暮らしに親御さんは賛成か等)。また、コロナ禍の影響を受けた業界では、ここ数年採用実績がなかったり、私自身の面接も後ろ倒しとなり、なかなか内定が出ず焦る場面もあったが、元々熱望していた業界で、真摯に面接に向き合って良かった。(学部)

100回の面接練習よりも1回の面接本番のほうが為になります。(修士)

自分の場合話し方を指摘されることが多くて就職活動が長引いてしまった。また面接練習はマイナビ等で行ったが結局数をこなす必要があった。(修士)

ESは必ず他人に見てもらいましょう。学内外問わず、面接講座を受講するのも良いかもしれません。また、本選考が始まるまでにインターン等の面接を経験しておくことを強くお勧めします。(修士)

変わってると言われてる人たち、ESでも変わった文章を書くかもしれないので、誰かに添削してもらうことを1つの案にしてほしい。(修士)

オンラインであることを活かして第一希望の企業だけでなく、その企業と同じ業界の企業の面接も併せて受けることでより業界の理解が深まり、さらに比較することで説得力も増すと思うのでどんどん面接をして大丈夫だと感じました。(修士)

面接に落ちることに慣れてください。そうすれば本命の面接でも肩の力を抜いて臨めるでしょう。(修士)

面接に落ちても「自分とは合わなかった」以外考える必要は無いと思います。(修士)

ESや面接対策は1人ではしないこと。(修士)

大学のキャリア支援の利用について

キャリア相談の人は的確なアドバイスを貰える。自分で完璧な履歴書だと思っていっても一回行った方がいい。(学部)

就活支援は意外に有用なので相談できる人がいないなら活用すべき。一人で行う就活は苦しい。(学部)

大学で行われる就職ガイダンスや、学生支援・社会連携課のキャリア相談、面接練習への参加がとても役に立ちました。大学からの支援には積極的に頼るといいと思います。(学部/修士)

キャリアセンターにとっても助けていただきました。1人で悩まず利用することをお勧めします。(学部/修士)

就職活動に関する情報にアンテナをはっておくことと、学校の就職支援サポートを有効に活用することをお勧めします。(修士)

マ○ナビ・リ○ナビ等よりも、課程・専攻事務室の掲示板を参考にした方がいい。(修士)

大学のキャリア相談室に通うことをお勧めします。私は、まだ余裕のある時期に一週間連続で通い、自分に合った相談員を見つけました。その相談員の方に面接やエントリーシートの指導を何度もしていただきました。その結果、スムーズに納得のいく就活を行うことができました。(修士)

面接練習がとても良かったので、積極的に受けるべきだと思います！(修士)

留学生へのアドバイス

日本での就活タイミングをよく把握することがとても重要です。いつまで、何を準備しないといけないのか。業界、企業の規模によって、応募する期間が異なることに配慮して、就活のスケジュールを取り込む必要がある。(修士)

外国人として日本企業に就職するのは難しいが、多くの準備すれば可能だと思います。(修士)

その他アドバイス

粘り強く頑張ってください。(学部)

人生には妥協も必要 (学部)

院に進むかどうか悩んでいる人は一応春に就活しておいた方がいい。(学部)

面接や ES 対策などやることが多くて大変だと思いますが、悔いのないように就職活動を行うことが大切だと思います。(学部)

周りの人は案外相談に乗ってくれるし、協力してくれるから、小さい困り事でも言ってみたら何かが変わる可能性があると思います。(学部)

私は一度も内定が出ず冬まで就職活動を続け、22 年入社として落ちた会社に志望度の高さをお伝えし、23 卒の採用活動前に 23 年入社として内定をいただきました。就職活動がうまくいかないと悩んでいる人の希望のひとつになればいいと思いお伝えいたします。(学部)

就職活動の軸はできるだけ早く決めるべきだと思います。(学部/修士)

先入観は悪、固定観念は罪。労働・就職に対する圧倒的知識の欠乏。(修士)

落ちるパターンを頭の片隅に置いたほうがいいのかも。落ちた時の落差とショックで後々の就職活動で影響が出ると思う。あと、事前準備と練習は大切。(修士)

オンラインに慣れておくといいと思います。(修士)

就職活動が人生のすべてではないので根詰めすぎないようにしてください (修士)

あまり追い込みすぎずに、複数の選択を持って頑張ってください。(修士)

周りの就活状況などに焦らず、コツコツと頑張ってください。(修士)

その他アドバイス（前頁からの続き）

数をこなすのと精神的に追い詰められたら就職活動をしていない周りの人間に相談してください。（修士）

この大学は基本的にほぼ全ての企業に知られているので、実力に見合わないと思う企業にも果敢に挑戦して良いと思います。ただ事前準備は怠らないように。（修士）

前向きに、落ち込んだら休んで、自分のペースで頑張ってください。（修士）

大学院進学希望でも学部3年生から就活に触れておくべきだと思いました。（修士）

就職活動は自分の精神との戦いになりますが、気負いすぎずに頑張ってください。就職活動中にどれだけ思うようにいかなかったとしても最後に決まった企業が、自分にとって一番の企業です。（修士）

推薦にこだわらないこと（修士）

後悔のない就職活動ができることがベストではありますが、万が一上手くいかなくもその先どうにかなると思います。一度失敗したら2度と先はない、などとプレッシャーを受けすぎると心身ともにまいってしまうこともあると思いますので、重く感じすぎずにどうか活動を続けて行ってほしいです。（修士）

学部卒は2年生の1月、院卒は4年生の1月ぐらいから就職活動を意識して行動を始めると良い就職先に合格できやすいと思います。早ければ早いほど良いです。（修士）

日系大手の総合職を狙って就職活動をする場合、動き出すのは早ければ早いほうが良いと思います（理想は学部3年生4月もしくは大学院1年の4月から）。（修士）

公務員試験の勉強は、早めに始めましょう。（修士）

その他アドバイス（前頁からの続き）

研究が嫌な奴ほど就活頑張れ。閉鎖的空間で上手くやるより、社会で上手くやれる人間の方がずっとかっこいいという強気で当たるべき。その分、自分の研究を話すことができるようになること。実験のうまさとは話す上手さは相関関係がない。面接対策はリハーサルも大事だが、雑誌会などでどのようにすれば相手に話が伝わるかを考え抜くこと、正直これだけでESと面接は怖くなくなった。良くない話かもしれないが、状況次第では就活が心の頼りになる時もある。要は就活はやれば不安じゃなくなる。（修士）

就活を知ること。自分の戦い方を探求すること。（修士）

途中で希望の企業を諦めることなく、信じて突き進める人が最後は勝ちます。（修士）

就職活動は非日常のため、気分が悪くなってくることがあると思います。そういう時、白黒思考に陥らないように気を付けることが大切です。（博士）

昨今は、就活がどんどん大学生活に入り込んできており、学生たちの前に「将来のために、やらなければならないこと」で溢れかえっているように感じます。多種多様な選択肢がある中でしようもない就活ビジネスに踊らされないよう注意してほしい。また「一度レールを外れてしまっても、何とかなる」ということは知っておいてほしい。（博士）

